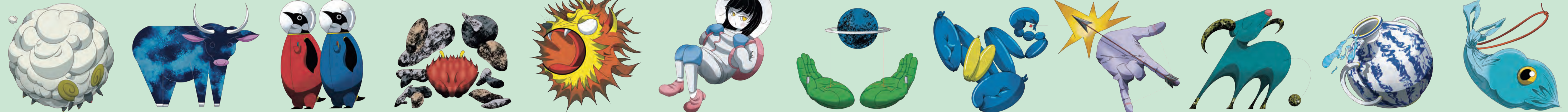




# 新連載!! そうする? 占い

「次にどんな表現活動をしたら良いか?」をテーマに、12星座占いをしました。なにかを表現することで、皆さんの運勢がより良くなりますように。それぞれの星座の表現者のおまけつきです。



- 牡羊座** 3月21日~4月19日 (アクションアート) 直感に優れ、情熱を表現することが得意な牡羊座は、アクションペインティングやパフォーマンスアートに挑戦してみてください。根気の要る作業を通じて、内面の静けさと集中力を高めることができます。 牡羊座の表現者: レオナルド・ダ・ヴィンチ 4月15日生
- 牡牛座** 4月20日~5月20日 (彫刻) 着実に技術を身につけることができる牡牛座には、粘土や石を使った彫刻がぴったり。根気の要る作業を通じて、内面の静けさと集中力を高めることができます。 牡牛座の表現者: サルバドール・ダリ 5月11日生
- 双子座** 5月21日~6月21日 (デジタルアート) スピード感があってコミュニケーションが得意な双子座は、デジタルメディアを使ったアートに挑戦してみてください。ソーシャルメディアでのシェアやブログへの投稿も良いでしょう。 双子座の表現者: ポール・ゴーギャン 6月7日生
- 蟹座** 6月22日~7月22日 (写真) 感受性豊かな蟹座には、写真を通じて情熱を表現することを提案します。特に自然や身近な人々の写真が、心を落ち着かせ、豊かさを引き出すでしょう。 蟹座の表現者: フリーダ・カロ 7月6日生
- 獅子座** 7月23日~8月22日 (演劇・舞台) 獅子座の人は、舞台上で輝きます。地元劇団に参加したり、演出やプロデュースを手掛けることで才能が開花する兆しがあります。ワークショップへの参加も良いでしょう。 獅子座の表現者: アンディ・ウォーホル 8月6日生
- 乙女座** 8月23日~9月22日 (文学・執筆) 細部を大切に乙女座には、詩や小説、エッセイの執筆がおすすめです。読書会やライティングワークショップへの参加も良いでしょう。 乙女座の表現者: 竹久夢二 9月16日生
- 天秤座** 9月23日~10月23日 (音楽) 調和とバランスを重んじる今の天秤座は、音楽活動をしてみては。楽器の演奏や歌、音楽プロジェクトへの参加で、身体で調和を感じながら、新しい人との交流が広がっていくでしょう。 天秤座の表現者: ル・コルビュゼ 10月6日生
- 蠍座** 10月24日~11月22日 (映画・映像制作) 内に情熱を秘めた蠍座には、映画やビデオ制作を推奨します。独自の視点で映像に落とし込んでいくことで、深い感情を表現することができ、精神的な開放感を得ることができそうです。 蠍座の表現者: パブロ・ピカソ 10月25日生
- 射手座** 11月23日~12月21日 (旅行写真・ロードムービー) 自由を愛する射手座には、旅行しながらの写真や映像撮影をお勧めします。移動して知らない文化に触れることを通じて、視野が広がり、心が楽になっていきます。 射手座の表現者: 奈良美智 12月5日生
- 山羊座** 12月22日~1月19日 (歴史・街並み保存) 伝統と継続を大切にする山羊座には、地域の歴史を記録し、保存する活動が合っています。文化遺産や街並みの保護に関わることで、地域社会に貢献できるでしょう。 山羊座の表現者: 宮崎駿 1月5日生
- 水瓶座** 1月20日~2月18日 (現代アート) 革新を求めた水瓶座は、現代アートの分野で新たなトレンドを作ることができるでしょう。実験的なアートプロジェクトに参加することで、自分の新しい可能性を探ることができます。 水瓶座の表現者: ジェフ・クーンズ 1月21日生
- 魚座** 2月19日~3月20日 (詩・創作) 夢想力の高い魚座には、詩や物語性のある創作活動がおすすめです。感性をフルに活かして、日常生活の傍ら創造的な作品を生み出すことができます。 魚座の表現者: 岡本太郎 2月26日生

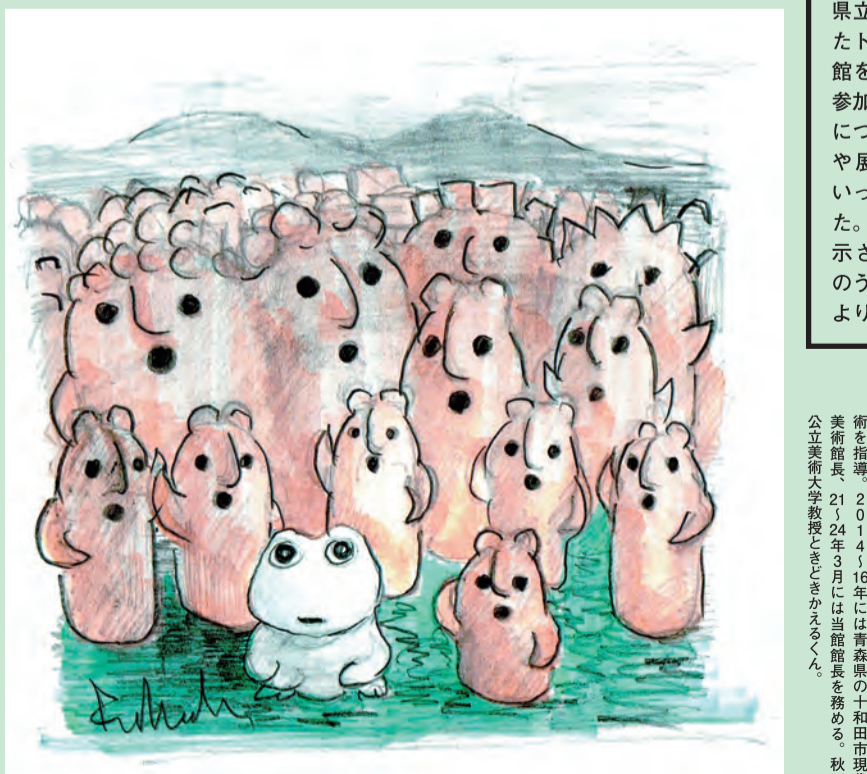
## PARK | いきるとつくるのわ 「文化創造館の庭で夏野菜を育てよう」

活動期間: 2024年5月~9月 栽培指導: ガイアガーデン (秋田市柳田) | 土づくりこだわった野菜栽培を実践する農家

当館の屋外デッキで、夏野菜のプランター栽培をしました。ゴーヤ、きゅうり、大玉トマト、ミニトマト、長ナス、白ナス、ピーマン、とうがらし、オクラ、インゲン、さつまいも、枝豆、空芯菜、いちじく、大葉、カモミール、バジル、ローズマリー。土づくり、グリーンカーテンの設置にはじまり、40名ほどが交代で、水やりや観察を行ないながら、収穫をしました。



写真: 伊藤晴史 (Creative Peg Works)



絵: 文・藤巻 浩樹 (Hiroki Fujimaki)

## NOYさんとZINEづくりのワークショップを終えて

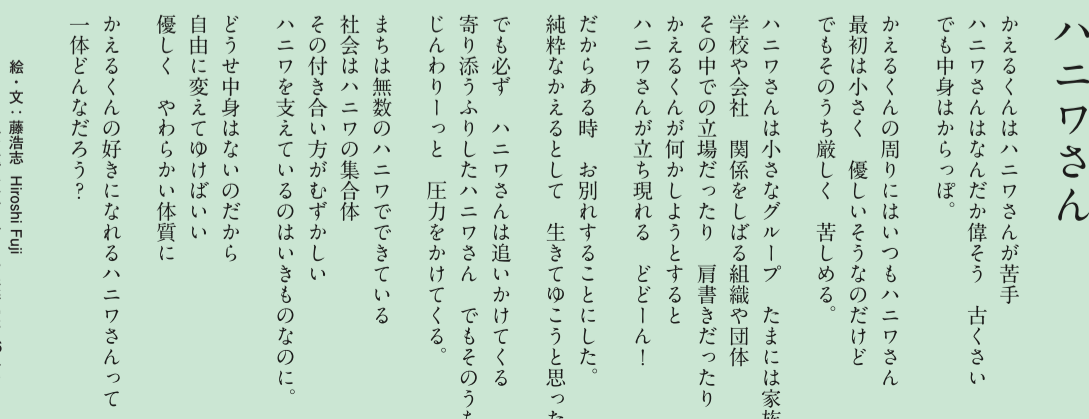
リソグラフ印刷機の稼働が始まって約一年が経過した。8月には青・緑のインクが期間限定で追加された影響で利用者も増え、緩やかながら盛り上がりを見せている。8月11日(日・祝)には当館主催「イラストレーターに聞く、イラストレーターとつくる」というイベントが開かれた。ゲストには、東京都原宿にあるリソグラフィスタジオ「STUDIO LE MONDE」のスタッフ、NOY(のい)さんを迎えた。NOYさんはイラストレーターとして活動しながら、リソグラフィオペレーターとしても勤務している。イベントは座談会とワークショップの2部構成で実施され、後半のワークショップでは10名の参加者と共にZINEを制作した。テーマはシンプルに「夏」。4歳から50代まで幅広い年齢層の方が集まり、夏の思い出を書き起こした。特に印象的だったのは高校生の参加者である。彼女は文化創造館1階の「O HAJIMARU」で期間限定で取り扱っていたNOYさんのグッズを購入し、その場でワークショップに申し込んでくださった。「NOYさんの絵の世界観が素敵で、これは参加しなくちゃと思いました」と話していた。

初めてのリソグラフィ印刷ながら自分なりに調べてきた彼女は、鉛筆や水性ペンなど複数の画材を持参し、オリジナルのキャラクターや羊燈まつりのイラストを作成。リソグラフィはペンの質感も細かく再現できるため、手書きだからこそその表現がうまく出力されていた。年齢や生活範囲が異なる参加者たちが作ったZINE。黙々と作業しながら印刷の工程に入るとみんながリソグラフィの周りに集まり、どんな仕上がりに出てくるのか覗き込むように見守る。その光景がなんだか面白い。出来上がったZINEも自分以外の個人的な話や思い出が集まっていて手元にあるのが不思議だ。「その場で皆さんと描いて集めて作ったZINE、自分以外の人が担当したページは意識領域外って感じがしておもしろいですね。スタジオでもワークショップやろうと思います!」とNOYさんもコメントしていた。一冊の本を原稿制作から製本まで、他の誰かと一緒に作る体験であるからこそ、共有できる言葉があるのかもしれないと感じた。 文: 白田佐輔 (当館スタッフ)

## 対談「地図と熊と美術館」 鴻池朋子(アーティスト) × 奥脇嵩大(青森県立美術館 学芸員)

秋田市出身のアーティスト鴻池朋子さんのつくる喜びを紹介する個展「メディスン・インフラ」(青森県立美術館)に合わせて開催されたトークイベント。鴻池さんの来館を待ちに待った100名を超える参加者が、鴻池さんの創作の試みについて、耳を傾けました。作品や展示風景がスタジオA1の壁いっぱいにはスライド投影されました。「メディスン・インフラ」で展示されていた指人形作品約80点のうち、3体を、奥脇さんに、青森より連れてきていただきました。

かえるくんはハニワさんが苦手。ハニワさんはなんでもが偉そう。古くさいでも中身はからっぽ。かえるくんの周りにはいつもハニワさん。最初は小さく、優しいうなだけどもそのうち厳しく、苦しめる。ハニワさんは小さなグループ。たまには家族学校や会社。関係をしばる組織や団体。その中で立場だったり、肩書きだったりかえるくんが何かしようとする。ハニワさんが立ち現れる。どどん! だからある時、お別れすることにした。純粋なかえるくんとして、生きてゆこうと思った。でも必ず、ハニワさんは追いかけてくる。寄り添うように。ハニワさん。でもそのうちじんわりと、圧力をかけてくる。みんなは無数のハニワでできている。またはハニワの集合体。その付き合いかたがむずかしい。ハニワを支えているのはいきものなのに、自由に変わってゆけない。だから自由に変えてゆけない。優しく、やわらかい体質にかえるくんの好きになれるハニワさんって一体どんなだろう?



日時: 2024年8月16日(金) 会場: 当館2階スタジオA1 主催: 秋田市文化創造館

## 8mm FILM+Sound ワークショップ ~昔の無音フィルム映像に音をつけてみよう!~

夏休み真っ只中の8月5日。学生を対象とした、昔の無音フィルム映像「8ミリフィルム」に音をつけて編集するワークショップを開催しました。今回は「秋田8ミリフィルム・アンソロジー」を主宰する映画監督の石山友美さんとの協働企画。映画や映像作品の音づくりに携わる臼井勝さんを講師としてお招きし、映像における録音・整音・音響効果についてのレクチャーやワークショップを実施しました。最初に臼井さんのお仕事のお話。「みなさんは映画や映像作品の効果音がどのように作られているか、知っていますか?」実際に臼井さんが携わった映像を上映しながら、そこに流れる「音」を意識し、効果的な音の付け方や演出のポイントをうかがいます。効果音やBGMを加えることで様々な印象を演出できることなど、私たちが普段何気なく見ている映像の裏面にこんな世界があったのか!と新しい感じ方を教えていただきました。最後にみんなで完成した映像を鑑賞して終了。編集した映像は創造館のウェブサイトに公開しています。

日時: 2024年8月5日(月) 会場: 当館スタジオA2 講師: 臼井勝さん、石山友美さん 共催: 秋田8ミリフィルム・アンソロジー 秋田市文化創造館

## 作業スペース「ソウゾウカンラボ」

つくるために必要な素材やアイデア、道具が揃った作業スペース「ソウゾウカンラボ」がオープンしました。いつでも誰でも利用可能です。自由に使える素材の中には、地域の企業からご提供いただいたものもあります。

【いつでも自由に使えるもの(無料)】 素材: 糊紙、布、空き箱、木片など 文房具: ペン、ハサミ、カッターなど 会場: 当館1階コミュニティスペース 主催: 秋田市文化創造館



味噌も醤油もねえんだって。地中海に鮭がわいてるけど、市場に行っても切り身の魚なんてない。アカエイのサメなの。米も精米の技術がないから石入ってたの。日本人はパンばかり食ってられねべものがねえんだって。味噌も醤油もねえんだって。味噌は塩がベース。岩塩。とつても難儀するわけ。イーストだから豚肉がダメで、牛肉、羊肉、鶏、ラック。運よく、酒もない、女もいないから、ひたすら仕事。俺はラマダも経験した。太腹でやる間ま食えねえんだが。若いもんはうごきません。モスクに行つて、アッラーの神にお祈りもした。ホームシックにはならない。すたひまなえよ。

## 受付日記

まぶしくて起きる。ずいぶん日が出るのが早くなった。朝、ふきを摘んだ。総合案内のデスクへビッチャーを持ってきて摘んだふきを生ける。蛍光灯の元で見ると、葉の色は生っぽく見えた。今日はふきを卓上に飾って開館する。夏は日射から来るのだと思う。総合案内には、鮎のからだのように伸び縮みする日差しが差している。すこし息苦し感じたので窓をはそく開けて風を通した。夏は身体を柔らかくするの。館内ですれ違ううどの人の身体も伸びやかに感じる。あたらしい風を吸って肩がやわらかになると胸がひらけりし、胸をひらくと誰かの話が聞きたくなる。総合案内を訪れた方から施設利用の相談をいただいていっしょに悩む。なにかをやるうとうと人にはたぶん引力がある。お話を聞いていると、私の霊性のようものがぐと引き寄せられて、胸にゆるやかなさざなみが立つのを感じる。きっと誰のここにも海のようなものはあるのだらうけれど、決してあなたとわたしの中で連続しない波のあいだに、我々はそれぞれ異なる存在であるということがある。とても肯定的に思える。それは、生き物が生まれて命が消えるまでの最も大きな宿題だと思える。

午後は明日の施設利用に向けた準備をしながら、人がただ居るということを考える。いつでも明かりがある場所ということ。ここに明かりを灯し続けられれば、十年、五十年の月日の中で、いつか誰かの灯台みたいになったらいいなと思う。そして、それは語られなくてもいい。夕方のスタジオは誰もいなくて、自分の歯が欠けたようにさびしい。だけれど、まことにこういう余地があるのもいいと思う。風が冷たくなってきたので、開けた窓を閉じて今日は退勤する。 文: 黒木美佑 (当館スタッフ)

## 「そうだん会」

当館を拠点として、新しい活動に挑戦してみたい...とそうぞうしている人・団体のために毎月第1金曜日に「そうだん会(事前予約制)」を開いています。さまざまなバックグラウンドをもつ当館のコーディネーターと一緒に、そうぞう・創造・想像...を現実にするために必要な「まず、はじめてみること」を探ってみましょう。明確なイメージがまだ掴みづらい方も大歓迎! まずはお気軽にご相談ください。



18歳で自暴自殺願に 当時の好き好きで生きてきた。料理を作るのは、食って体力を蓄えたためだ。それが料理のスタート。18歳で自暴自殺願に入った。次が赤坂の山王飯店。仲間には法政大。学んで、学んで、学んで、学んで、学んで。日大や近畿大のボクシングの仲間と連れて。親方に言っと、OK OK。雅叙園。食堂でねんだよ。俺、真面目だったから、俺の仲間なら、そういう事情を知らずして、いっしょに案内して料理を振る舞って、くれた。2人、1972年のミューン・ホールビュックに行つた。昔はそういう心のあかいたところがあった。

20人分の野菜炒め 生まれたのは、二二橋。昭和22年3月17日。少年時代は山から山まで遊んで。高校では白エイトリフティング部。重量挙げ。腰を壊して、選手をでなくなつてしまつて。2年の中期に「ネーシャ」で。金足農薬高。木造の校舎。大きな五右衛門風呂。みたく、20人分の野菜を炒めた。ものすこしい火柱が上がって、死ぬ思いをしたんだ。今なら火柱が上がらう。技術で抑えらるけど、したわけ。それら黒の底が抜けて、なんととして処理しようと思つて、山行つて穴を掘つて埋めた。

## あこがれのひと 堀岡盛さん(盛)料理人

「さくらい通の味」秋田市八橋の住み街の一角にある、行の絶えない中華料理店。料理人である、堀岡盛さんに会いにいきました。名物は「バラ炒め定食」。麻婆豆腐、店の隣の畑で採れた野菜や旬の食材を使ったおまかせの一品料理など、つわもの茶室の料理を自注で、日々常連客で賑わい、県外からも多くの人が訪れる。お話をうかがった日、盛の焼は、二煎茶(二ヶ子)ウ、牛骨大玉(ニウジヨウ)、味噌(トリスヨウ)などの唐辛子(トリスヨウ)、トマト、ゴイヤ、ツルナ、ラッキョ、仏手瓜、フエネルなどを、パクチ、コリアンダー、フェンネルなどで淹れていました。

写真: 石川直樹 聞き手: 熊谷新子 (当館スタッフ)